六ヶ所村立郷土館通信

2022.5.10　No79

みいつけた！

六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

南部せんべいを手焼きしました！

５月７日（土）午前、「南部せんべいを手焼き体験会」を開催しました。参加者たちは、六ヶ所村でも大正時代から南部せんべいが食されていたことや焼き型の模様の意味について学んだあと、好きな具材を入れたオリジナルせんべいをつくって楽しんでいました。

郷土館には尾駮、二又、泊地区からせんべいの焼き型が寄贈されています。

南部せんべいの始まりは、南北朝時代、長慶天皇が現在の三戸郡南部町を訪れた際に、食事に困った家臣の赤松助左衛門がそば粉と胡麻を自分の鉄兜で焼き上げて献上したという説が広く知られています。この時、天皇は感激し「楠木正成に匹敵する忠臣」だとして、せんべいの焼き型に楠木氏の家紋「菊水」と、赤松氏の家紋「三階松」の使用を許した、といわれています。（諸説あり）

楠木氏の家紋「菊水」

赤松氏の家紋「三階松」

小麦粉と食塩水でつくったタネと具材を焼き型に入れて焼きます。

おもて１分うら１分焼くと完成です！

家族で協力し合いながら様々なせんべいを焼いていました。

小エビせんべいとピーナッツせんべい

参加者の感想：とてもおいしかったです。学校の先生にもせんべいのつくり方を教えてあげたいです。（Ｋくん）